

低学年児童のキャンプにおける、キャンプカウンセラーの言葉がけに関する研究

山村 卓大 (生涯スポーツ学科 野外スポーツ)
指導教員 中野友博

キーワード：キャンプカウンセラー,低学年児童,言葉がけ

1 序論

組織キャンプにおいて、特に幼児や低学年児童を対象としたキャンプでは、キャンプ指導に当たるキャンプカウンセラー（以下、カウンセラーとする）の言葉がけは、キャンプの雰囲気や小集団のまとまりに影響を与えられ、中でも食事作りと食事はキャンププログラムとして全日程を通して行われる活動であるため、食事作りと食事でのカウンセラーの言葉がけは、キャンパーと作り上げるキャンプの雰囲気や小集団のまとまりに影響を与えられ、

本研究は、低学年児童のキャンプにおけるカウンセラーとキャンパーの会話の中でカウンセラーの言葉の質と量に注目し、カウンセラーがキャンパーにどのような言葉がけをしているのかを明らかにすることを目的とする。

2 研究方法

【被験者】2012年7月29日の日帰りキャンプと8月6日から8月9日の3泊4日で実施した、びわこ・ちびっこキャンプ2012（以下、ちびキャン）のうち小学校低学年児童の班を担当したカウンセラー3名を対象とした。

【調査方法】カウンセラーの言葉の質や量をはかる為、食事作りと食事でのカウンセラーとキャンパーの会話を12回録音した。時間を統一するため開始から30分間の一人合計360分を分析対象とした。録音したものを雰囲気指標に基づき、「キャンパー中心の発言」、「カウンセラー中心の発言」、「中立的発言」の3つに分類し、カウンセラーの言葉の質と量を分析した。

3 結果と考察

1) カウンセラーの言葉の量

言葉がけの量に関して、発言の一文を回数とした。食事作りと食事の比較では、1班カウンセラーは、共に発言回数が少なかった。カウンセラーの指示だけでなく本部のスタッフからの指示やキャンパー同士の会話が多いことからカウンセラーの発言回数が少なかったのではないかと考えられる。

2班カウンセラーは、食事作りよりも食事での発言回数が多かった。このことから、食事作りでは、カウンセラー自ら行動することや、キャンパーがバラバラになっていることもあり、発言回数が少なかったのではないかと考えられる。また食事では、同じ食卓を囲むことから、キャンパーと会話が多かったのではないかと考える。

3班カウンセラーは、食事よりも食事作りでの発言回数が多かった。食事作りの発言回数が多か

ったのは、キャンパーの食事作りをしっかりとサポートすることで発言が多くなったのではないかと考えられる、また食事で発言回数が少なかったのは、食事でキャンパーの話を聞いてあげる側に回っていたのではないかと考えられる。

2) カウンセラーの言葉の質

食事作りと食事におけるカウンセラーの発言内容を雰囲気指標に基づき3つに分類したその回数を図1, 2に示した。

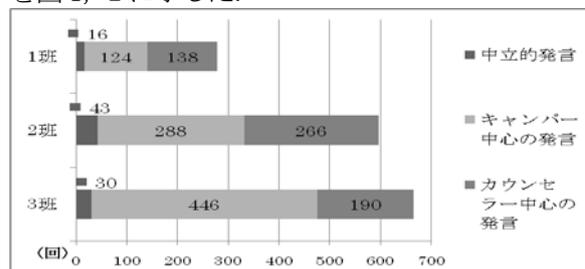


図1：食事作りにおけるカウンセラーの言葉がけ

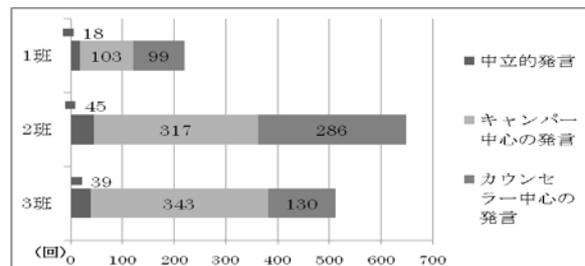


図2：食事におけるカウンセラーの言葉がけ

キャンプ指導経験の少ない、1班と2班のカウンセラーは、キャンパー中心の発言とカウンセラー中心の発言の割合に差は見られなかった。3班カウンセラーはカウンセラー中心の発言よりもキャンパー中心の発言の割合が多かったことから、キャンプ指導経験が20回以上ある3班のカウンセラーは、キャンパー中心の発言が多くなったのではないかと考えられる。

4 まとめ

キャンパーに対するカウンセラーの指導方法がカウンセラーの発言回数に影響すると考えられる。つまり指導経験が多いカウンセラーは、キャンパー中心の発言の割合が高くなると考えられ、小集団の雰囲気やまとまりが良くなると考えられる。

参考文献

- 1) 川村協平 中村織江 広野陽子 小林恵理香 (1991) 「キャンプにおけるキャンプカウンセラーの言葉がけに関する研究」日本保険学会大会研究論文集 (52) pp342 - 343
- 2) 川村協平 (2001)：「幼児の自然体験の考え方・意識」：山田英美・川村協平：「幼児キャンプ—森の体験—」第1版 春風社 p.13